

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成 21 年 4 月 9 日 (2009.4.9)

【公開番号】特開 2006-237005 (P2006-237005A)
 【公開日】平成 18 年 9 月 7 日 (2006.9.7)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-035
 【出願番号】特願 2006-46267 (P2006-46267)
 【国際特許分類】

H 0 1 R 31/06 (2006.01)

H 0 1 R 24/02 (2006.01)

H 0 1 R 103/00 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 31/06 Q

H 0 1 R 17/04 J

H 0 1 R 103:00

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 2 月 19 日 (2009.2.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の同軸伝送線路の第 1 の中心導体に結合するように構成された第 1 の中心ピンを有する第 1 の同軸構造と、第 2 の同軸伝送線路の第 2 の中心導体に結合するように構成された第 2 の中心ピンを有する第 2 の同軸構造とを有するコネクタインタフェースと、

前記第 1 の同軸構造と前記第 2 の同軸構造とを囲むナットと、
 を備えているアダプタ。

【請求項 2】

前記ナットがスライド可能ナットである、請求項 1 に記載のアダプタ。

【請求項 3】

前記コネクタインタフェースが、前記第 1 の同軸構造および前記第 2 の同軸構造のうちの少なくとも 1 つを囲む持ち上がった接地面部分とフィールド部分とを有する面をさらに備えている、請求項 1 に記載のアダプタ。

【請求項 4】

前記持ち上がった接地面部分が、前記第 1 の同軸構造および前記第 2 の同軸構造の各々を囲んでいる、請求項 1 に記載のアダプタ。

【請求項 5】

第 2 のナットによって前記アダプタに結合されたコネクタ本体をさらに備え、前記第 1 の同軸伝送線路および前記第 2 の同軸伝送線路の各々は前記コネクタ本体を通して伸びて、前記アダプタに電気結合する、請求項 1 に記載のアダプタ。

【請求項 6】

前記第 2 のナットが第 2 のスライド可能ナットである、請求項 5 に記載のアダプタ。

【請求項 7】

前記第 2 のナットを囲むシェルをさらに備えている、請求項 5 に記載のアダプタ。

【請求項 8】

持ち上がった接地面部分を有する面と、

前記面から伸びる第 1 の同軸構造と、

前記面から伸び、前記第 1 の同軸構造に平行な第 2 の同軸構造であって、前記第 1 の同軸構造と前記第 2 の同軸構造とは、バレル内に配置されている、第 2 の同軸構造と、

嵌合するコネクタインタフェースに前記面を位置合わせするように構成されたアライメント機構と、

を備えているコネクタインタフェース。

【請求項 9】

面と、

前記面を囲むスライド可能ナットと、

前記面から伸びる第 1 の同軸構造と、

前記面から伸び、前記第 1 の同軸構造に平行な第 2 の同軸構造と、

嵌合するコネクタインタフェースに前記面を位置合わせするように構成されたアライメント機構と、

を備えているコネクタインタフェース。